

## 東三条まもる眼科の建築コンセプト

当然のことながら、診療所を訪れるのは、身体的・精神的な不安を抱える方が大半を占めています。不安な気持ちで訪れる患者さん達が少しでもリラックスでき、不安を解消することができないかを考え、東三条まもる眼科を設計しました。

診療所というと、白く清潔で閉鎖的なイメージを持った建物が多いのですが、あえて東三条まもる眼科では、明るく開放的で、温かみのある空間とすることで、検査や診察までの間、外の樹々を見ながら、ゆっくりと心を落ち着けることができるような場を作り出すことを心がけました。

外観には各所に木仕上げを採用し、駅前商店街という地域性に配慮した表情を作るとともに、医療施設としての敷居の高さを取り払う、つまり、医療に対する患者さんの心理的なバリアー（障害）を取り除くということを意識しました。

受付・待ち合いから、各種検査室、診察室、手術室へと、移動するに従って仕上げの雰囲気は少しずつ、温かみのある仕上げから、硬質で清潔なやや緊張感のある仕上げへと変化していきます。奥に行くに従い、患者さんが自然に診察・手術を受けるという気持ちになるよう、グラデーション状に空間の質を変えています。

部屋の並び方については、受付から、検査、診察、会計までのルートをループ状に配置することで、重複する移動動線を無くし、患者さんに分かりやすく、かつ、診療所側のハンドリングが容易になるような構成を採用しました。

医療制度が変化し地域医療が見直されるこの時代、東三条まもる眼科のように地域開かれた診療所が、より多くの方々に馴染んでいってくれたらと、切に願います。

金子勉建築設計事務所 代表 金子 勉